

# NC-16

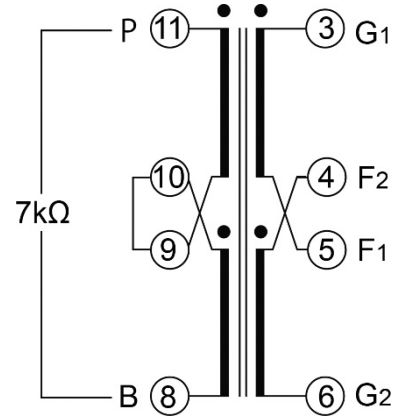
出力管を強力にドライブする、プッシュプル用インプット・トランスです。

NC-16は、単なる昔のインプット・トランスを再現したものではなく、新技術の導入により現在のプログラムソースにも充分対応できるように設計されています。

1次に直流電流を重畳しながら、低い周波数までレスポンスを伸ばしました。しかも、これと相反する高域特性は、2次開放で使っても素直な特性となっています。コアは、オリエント・ハイビー材のカットコアを使っています。

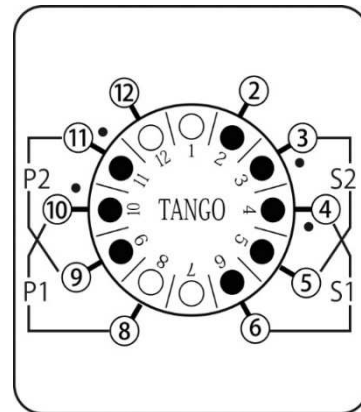
動作レベルも高いので、バイアスの深い300B、PX-25、50などの直熱3極管でも余裕を持ってドライブします。

結線図

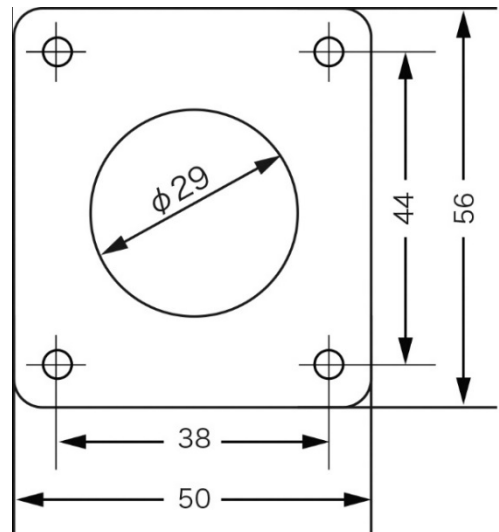


## <規 格>

- ◆周波数特性 25Hz～20KHz  
(-2dB, 入力4V,  $r_p=7K\Omega$ ,  $I_b=7mA$ )
- ◆1次最大重畳DC電流 DC15mA (1次直列)
- ◆変圧比 (1次 : 2次) 1+1 : 2+2
- ◆1次インピーダンス 7K $\Omega$   
(ドライバ管内部抵抗5～10K $\Omega$  適合)
- ◆1次インダクタンス 70H/7mA (80H/5mA, 50H/10mA)  
(5V/50Hz)
- ◆出力電圧 200Vrms  
(G1-G2間実効値) (歪率2%, 40Hz,  $r_p=7K\Omega$ ,  $I_b=7mA$ )
- ◆最大使用電圧 DC500V
- ◆巻線直流抵抗 (20°C) 全1次510 $\Omega$ , 全2次1.6K $\Omega$
- ◆ドライバ管例 6463, 6SN76350,  
76その他内部抵抗 5～10K $\Omega$  の管球



外形図



◆ドライバ用のインプット・トランスを上手に使うコツは、指定された1次インピーダンスに近い内部抵抗のドライバ管を使うことです。出力トランスは、2次に負荷されますのでドライブする出力管の内部抵抗が変化しても極端な特性変化はありません。それに対してNC-16は、2次開放で使うのが建前ですから、その特性はドライバ管の内部抵抗で決まります。真空管の内部抵抗は、プレート電流の1/3乗に反比例して変化しますのでプレート電流を変えてアンプの調整をしてください。真空管規格表も参考にしてください。

◆規格の項目に表示されているように、40Hzで出力電圧200Vrmsの時の歪率は2%です。直流を重畳していますので、この時の歪成分は聴感上有害度の低い第2調波がほとんどです。歪率は、出力電圧が低いとか再生周波数が高い場合は、低くなります。

◆トランス結合のCR結合に対する利点は、まず抵抗による電圧降下が少ないので電源電圧の利用率が良いことです。トランスの2次を開放で使うと、中域でのインピーダンスが高くなりドライバ管の動作が有利になります。また、出力管のグリッドを+まで振り込んだ時にCR結合でみられるブロッキング現象もありません。